



VOL 30

2009年12月号

発行2009年11月25日

日本山岳会 山岳地理クラブ

URL www.jac.or.jp/doukoukai/

旧鹿角街道のなごりを探索する (七時雨山麓に通じる古道)

大西 攻

夏に過ごしている岩手の八幡平市大更から七時雨山に向かう道は、旧鹿角(かづの)街道と呼ばれる古道であった。今まで何度も車で通り過ぎていたが、沢山の古い石碑の建立している場所があり、気になっていた。今年の夏は車を止め、確認のために周辺を探索すると、史跡指定の標柱があり山崎一里塚と記されている。



(左写真) 確かによく見ると道路を挟んで、土盛の一里塚が両側にあった。偶然にも史跡、歴史を趣味としているグループに出会い、説明を受けた。山崎一里塚は、人家の脇に今でも現存している、希少な一里塚であると云われた。現在の道

から両脇にある一里塚の幅は、結構離れていて自動車道よりまだ奥にある。昔の街道は、人や馬がすれ違う幅で作られていたはずである。何故だろうが疑問に思い、近くの古老から聞きだしたら、昔は一里塚の間に川があり、馬を休息させて水を飲ませたり、洗ったりしていた。現在は川がなくなり、一里塚の幅が広く見える理由である。



金比羅山 石碑群

もう一つの石碑群は、近辺の道路や田畑の拡張などで、掘り起したものを集めて建立した場所である。当時の人々は金毘羅神社や岩手山神社に、お参りに出かけることは非常に大変なことで、一般庶民には、手短かに近くの石碑(丸金マークは金毘羅神社)を拜むようになり、あちこちに多く石碑を建立したようだ。ここから先には寺田と云う集落があり、秋田の尾去沢鉦山から盛岡藩に銅の運搬する中継点であった。

その寺田の町北に野口一里塚跡(写真)があり、次の一里塚がある場所は、七時雨山山麓になる手前で、新田一里塚跡(写真)が出てくる。



野口一里塚跡(左)と新田一里塚跡(右)

その先を少し行くと、左の町営牧場の方向の道に入り、直ぐのところには白坂観音堂跡がある。戻って七時雨鉦泉を過ぎた左側の染田川に大滝があり、この大滝の上流側には大雨が降ると流される、歩行者用の橋がかけられている。川を渡り対岸を少し行くと、古道を守る「七時雨口マンの会」が整備した流霞道(りゅうがどう)と呼ばれる古道の入口の標識が立っている。この七時雨山麓の流霞道をしばらく歩いて行くと、留之沢一里塚に出る。(写真)



右の未舗装の作業道を進むと、町営牧場の番人小屋と牧場のゲートが現れて、車之走峠方向に行ける。その間には、飛脚殉職の碑、お助け小屋跡、マンダ並木(シナの木)、塞の神群と、いにしへの古道を感じさせる自然豊かな、散策路として楽しめる。(大西)



七時雨山

「しぐれる山」
しぐれるという しぐれるという
日に七たび しぐれるという
山なみは
幼くて 澄んだひとみに
とても不思議な瑠璃色の
瑠璃色の山に見えた

郷里の作詞家 江間章子作詞

(尾瀬の歌で有名な、夏の思い出の作詞家です)

行ってきました

井上山&須坂基線&根子岳

森合 孝信

昨年に引き続き、須坂基線探索を実施した。今回は、隊員の自動車に分乗しての探索であった。

10月24日、天候曇り、上田駅10:00に13名が予定通り集合。

4台の隊員車(平野車、加藤車、関車、井上車)に分乗し須坂長野ICから須坂市へ入った。前回から繰越された増大点である井上山から探索を開始した。11:45 枕状溶岩が露出している登山口(標高約300m)を出発。山道にはカシワの木が多く見られた。途中、四等三角点、須坂市が一望できる小城、大城という山城跡(看板には「主の井上氏は信濃源氏」と記載)や空堀跡を通過。気持ち良く山道を歩く。12:50 井上山山頂(771m)に到着。山頂は木々に囲

まれ展望はない。一等三角点はよく整備されていた。しかし、井上山は我々の低山という思い込みを一蹴させた。頂上直下では長い土の急斜面。滑りやすく雨天時は退却しなければならないコースだ。井上山で昼食をとり 15:00 に下山。その後、須坂基線の西端と東端を確認した。



井上山遠望と井上山山頂にて（雨傘にカメラを付け自動撮影）

西端は赤いリングがたわわに実る傍にあった。保護石は1個もなく、三角点は四方が欠けていた。東端は、コンクリート枠に囲まれ保護されていた。両端とも約 10 度方位が違う（地図の西偏7度と一致）。女性陣が隣の林檎畑で「2 週間ほど早いので売わけにはいかない。持っていき」と言われ農家の方からリングを貰い感激していた。



須坂基線西端(左)と東端(右)

赤や黄色に変化する景色を楽しみながら、17:10 菅平高原のペンション「ウッドラフ」に到着。ひと風呂あとに夕食とワイン等を美味しく楽しんだ。NPO 法人「やまぼうし自然学校」事務局長の瑞慶覧さんが加わり、珍楽器「鼻笛」が披露された。吹き方から関氏の尺八作りの話が引き出され、井上氏の「竹」に纏わる奥深い話に広がった。オーナーの加藤さんも参加し楽しい1時間となった。2 次会では、NHK「剣岳測量物語～40年「点の記」～」のDVDを鑑賞した。

10月25日、天候一部曇り、風が強い。採りたての高原レタスを土産にいただき 8:00 ペンションを出発。途中「やまぼうし自然学校」を訪問。8:45 一人 200 円の入山料を支払い菅平牧場から山行を開始。牧草地を超え白樺やダケカンパの樹林帯を進んだ。「クロマメの実、採取禁止」等の看板が多く見られた。登山道は整備がよく登りやすい。頂上近くでみぞれにあった。ガスで視界が悪い中 10:25 根子岳(2207m)に到着。頂上に細いしめ縄が巻かれた 1.5m ほどの高さの「禰古岳霊山」の石碑があった。その横の小さな祠の「大黒様」にお参りし、目的の三角点を目指す。10:55 小根子岳(2128m)到着。晴れてはいたが遠方はガスで覆われ井上山などは見えない。風が強い。一等三角点は朱色、方向は90度違っていた。(上写真)少し戻って風のない分岐道で昼食。



12:00 ここから2班に分かれ峰の原高原で合流することとした。ドライバー隊は自動車を取りに来た道を戻り、別動隊は峰の原高原へ出発。別動隊はカラマツの紅葉が続く道を下った。だるまストーブが置かれた避難小屋を通り、牧場とゴルフ場のグリーンを横目に見ながら 13:05 下山口に到着。途中、ガスが消え、昨日登った井上山が見えた。13:15 合流。探索は終了した。帰路、真田温泉で汗を流し、リング園でリングを買い込み、上田

駅で解散した。

トピック

「全国の齋藤さんいらっしゃあ～い！」齋藤山ふれあい登山
こんなイベントが我々地理クラブと縁がある地の縁がある方々によって主催されました。福島県南会津郡南会津町が主催する「南会津やまなみ”泊”覧会」が、11月1日「全国の齋藤さんいらっしゃあ～い」と全国の齋藤さんに呼びかけ、齋藤山に登ろうと企画したのである。

齋藤山(1278.3m)と言えば、分水嶺時に栗生沢集落に向かう途中、旧田島町から右折して左手に見えた山。この企画の登山隊長さんが地理クラブでも世話になったりんご園を経営する日本山岳会会員の渡部衛さん。参加者にりんごを配られたそうです。当日は齋藤さん以外も含めて百名が参加、前日には前夜祭が行われ芸能大会もあったようです。来年も企画するそうですから、ちょっと参加してみても如何でしょうか。

埼玉県に住む麗山会の齋藤知茂さんから齋藤山に行ってきたと情報を貰いました。(遠山元信)



(左)相変わらず元気な町長(右)こんなに大勢の齋藤さんが山頂に

例会の議事録 11月例会記録

2009年11月4日(水) 18:50～20:40 於JAC集会室B
出席者14名(北野、平野、近藤、鶴田(実)、鶴田(泰)、寺田(正)、半田(明)、半田(由)、羽鳥、遠山、大西、川口、森、今井(順不同)
内容： 国土地理院と合同で行った高尾山におけるGPS踏査の報告書が届いた。軌跡の測定結果を見るとGPSそのものに差はあまりないと思われる。今後のプロジェクトの展開についてあらためて打ち合わせる必要がある。(北野) 須坂基線の2回目の踏査を10月24、25日に13名が参加して行った。詳細は別途報告済み。(平野) 北野代表から第一水曜日に行っているAGCの月例会は他の会合と重なり、部屋が確保できないため、変更してはどうかとの案に対して意見交換、次回再考する。また1月は第一水曜日が6日のため、変更する予定。(北野) 多摩川分水嶺踏査の続きを青梅丘陵で11月21日(土)に行う。青梅線東青梅駅北口午前9時集合。詳細はAGCレポート先月号参照。(北野) デジタル・アース・テクノロジー社社長から国土地理院の地図を基にした立体地図の詳細な説明を受けた。200名山と周辺地域(2万5千分の1)の作成を予定している。販売はターマップで1枚500円だが、「スカイ・ユー・サービス」(2500円/年)に登録すれば1年間自由に使うことが出来るとのこと。(アーステクノロジー社/神前社長) 終了後「鯨の家」で懇親会(14名)。以上 (記録:今井)

お知らせ

次回の例会

日時 2009年12月2日(水) 18:30 から
於: 山岳会 ルーム
テーマ: 山行計画() ほか

編集後記 今月も綱渡りの編集作業でしたが、おかげさまで30号が発行できました。記念の特別号にはなりませんでしたが、今後も皆さんの協力をお願いします(kon)

AGCレポート vol-30 2009年11月25日発行
発行: 日本山岳会・山岳地理クラブ(代表:北野忠彦)
〒102-0081 東京都千代田区四番町5-4 日本山岳会 気付
TEL 03-3261-4433 FAX 03-3261-4441
編集担当: 近藤 E-mail: hikarikon@nifty.com